

術前訪問が定着しない要因の検討

手術部 ○高橋加寿美 福島正子 石丸麻理子 神田久子

I. はじめに

「手術室における看護は、手術前の患者とのかかわり（術前訪問）を出発点にして、手術療法と手術の行われる場（手術室）の特性に基づいた看護の実施（手洗い＝直接介助、外回り＝間接介助）と、手術後の患者とのかかわりによる看護の評価（術後訪問）を包含したものである」¹⁾と佐藤はいつている。当手術部では、1972年より術前訪問を開始したが、業務として定着しなかった。そのため1998年、2002年に業務として定着するための方法について研究をすすめたが、研究期間から研究期間後暫くは続いていたが定着はしなかった。そこで我々は術前訪問が定着しないのは、「手術部看護師が、意義・目的について明確に理解できていないからではないか」と考え、現状を把握するために定着しない要因を抽出し、検討した。

II. 研究方法

1. 期間

2003年2月～3月

2. 対象

手術部看護師 28名

3. 調査方法

1) 術前訪問に対する考え、2) 手術部の現状について自由回答法による自記式質問紙調査を行った。回答の中から一文ずつ拾い出し、K・J法を用いて分類した。

記名回答で個人的な追及はしないこと、中間回答には質問をすること、本研究のみに使用することを質問紙に記載し説明した。

III. 結果

質問紙の回収率は100%（28/28名）であった。対象者の平均年齢は33.4歳、手術部平均経験年数は3.3年であった。

1. アンケートの結果

術前訪問が定着しない要因を抽出し、分類した結果、1) 時間的問題、2) 意義・目的の認識不足の問題、3) 病棟・外来との連携の問題、4) 組織風土の問題の4つの要因に分類された。この結果は全国施設アンケート-術前・術後訪問の現状と課題-（オペネーシング編集部）³⁾の報告したものと同様の内容であった。

1) 時間的問題

これに含まれる内容は、「手術件数、急患の増加」「午前午後の手術に付く」「時間に余裕がない」「時間に余裕ができた時には、各自が自分の業務に追われる」「毎日多忙で、日々の手術をこなして行くだけで精一杯」「手術件数に対して看護師が少ないと感じている」「今の手術室では忙しいため、行けなくても仕方ない」「時間内に行くのは無理」「時間外まで行っていない」「時間外で訪問することへの抵抗がある」「術前の記録、訪問時間など決まっていない」などであった。時間的問題は、他の3項目と比較して最も多く44件の回答があった。

2) 意義・目的の認識不足の問題

殆んど全員が術前訪問は必要であり、意義・目的として、「情報収集」「面識を取ることによって、不安の軽減につながる」「個別性を生かした看護展開ができる」「看護の質の向上」「予測した物品の準備ができる」「病棟看護師との連携を取ることで、術前、中、後の看護がスムーズになる」などの回答していた(70件)。また、「術前訪問に意義が見出せない」「必要性を実感していない」「必要だという意識が薄い」「意味や目的について自分の中であいまいな部分が多い」「同一の様式がなくどうしたらよいか分からない」との回答は11件であった。この結果は、「手術部看護師が、意義・目的について明確に理解できていない」の回答件数が多く見られるであろうという仮説とは異なっていた。

3) 組織風土の問題

これに含まれる内容は「術前訪問をしなくても、手術は進んでいく」「何とかなっている」であり、10件の回答があった。また、「新人、配置換え1年の看護師の優先課題をこなす」「手術介助ができればよしとする、組織的風土」「手術介助ができるようにと必死でやってそのままゴールで終わり」という回答もみられた。

4) 病棟・外来との連携の問題

これに含まれる内容は、「前日の患者の一日の流れのなかでは、時間内に訪問する事は困難」「時間内にうまく自分と患者のタイミングを合わせて、術前訪問に行くには、どうすればよいのか分からない」「時間外で行くにしても、患者の食事時間を考慮すると、かなり遅い時間になってしまう」「病棟担当看護師との連携が取れない」であり、5件の回答があった。

IV 考察

1. 時間的問題

手術件数は、1998年では3285件(うち緊急手術数530件)、2002年では3830件(うち緊急手術数714件)と明らかに増加していることから、この問題が抽出された背景には、手術件数と手術時間の増加に関連があるのではないかと考えた(図1)。また、近年入院日数の短縮に伴い、手術前日入院も増加しているため、術前訪問のタイミングの難しさも関係していると考えた。そして、現在、手術に付いていない時間は、器械組みや翌日の器

械の準備、各自の業務の仕事をしていることから、「今の手術室では忙しいため、行けなくても仕方ない」などの意見が見られたのだと考えた。今後術前訪問ができるように、師長はスタッフの時間環境を整え、日々のリーダーが時間調整をしていくことが必要だと考えた。それとともに、それぞれの看護師が時間を調整していく意識を持つことが大切である。

2. 意義、目的の認識不足

殆んど全員が術前訪問は必要と回答しており、意義・目的も明確に回答されていた。このことから、仮説である「手術部看護師が、意義・目的について明確に理解できていないからではないか」との考えは否定された。しかし、これまでの取り組みにおいて術前訪問が定着していない実情は、教科書的には術前訪問のメリットを理解しながら、行動に移すまでのモチベーションが希薄であることが考えられる。ハーツバーグは、二要因理論（図2,表-1-1,1-2）の中で「人間が仕事に対して意欲的になるのは、動機要因が直接動機づけとなり、行動を起こす引き金になる」⁴⁾と言っている。このことから、周手術期看護の意義・目的を正確に認識することで意欲を高めることができるのではないかと考えた。今後、各個人レベル、手術室全体のグループダイナミクス、そして、手術室の看護管理システムの側面から、術前訪問の定着へ向けて、業務改善、教育、方法、様式について検討していく必要がある。

3. 病棟、外来との連携の問題

現在、手術室から外来、病棟への働きかけをしていないため、外来、病棟スタッフとの連携は乏しい。手術は、手術室だけで行われるのではない。周手術期看護は「手術療法を選択した患者が、術前・術中・術後を経て退院するまでの一連のプロセスにかかわる看護」⁵⁾と定義されている。また、「病棟看護と手術室看護の連携こそが、手術患者の脅威を軽減させ、手術の円滑な実施と、速やかな手術からの回復を実現させる手術患者の看護を強固なものにする」と言われている⁶⁾。手術患者の心身の安全・安楽のため、外来看護師、病棟看護師、手術部看護師が連携を取り合い、手術患者に対しそれぞれのセクションが必要な情報提供、看護援助を行っていく必要があると考える。そのため、これからは手術患者を中心に周手術期のプロセスに沿った看護展開へ向けて、外来看護師、病棟看護師とともに、周手術期看護における各セクションの役割などを話し合い、検討していく必要がある。

4. 組織風土の問題

現状として、手術室内の看護（直接介助の器械出しと外回りを行う間接介助）を重視の傾向が手術室全体の雰囲気的主流となっているため、「術前訪問をしなくても、手術は進んでいく」といった回答が見られたのだと考える。「組織全体の人々の行動を変化させるということは、長年の組織の伝統や習慣すべてを変化させることに等しく、時間のかかる作業である」と言われている⁷⁾。しかし、手術室看護師による手術室外での看護として、術前訪問の必要性、意義、目的を紐解き、理解し、業務の一環として組み込むことができ

るよう、術前訪問の方法の構築、評価基準を作成し看護の振り返りについて検討していく必要がある。

V. まとめ

1. 術前訪問が定着しない要因は、時間的問題、意義・目的の認識不足、病棟、外来との連携不足、組織風土の問題の4つの問題点であり、全国施設アンケートの報告³⁾と同様であった。
2. 「手術部看護師が、意義・目的について明確に理解できていない」の回答件数が多く見られるであろうという仮説とは異なっていた。しかし、術前訪問のメリットを理解していながら行動に移すまでのモチベーションが希薄であることが考えられた。
3. 問題点に対してはその背景を考慮し、実現可能な対策を検討していく必要があると考えた。

文献

- 1) 佐藤禮子. 手術室看護マニュアル. 監修にあたって. 臨床看護. 20(13) 1857. 1994.
- 2) 宮崎綾子他. 術前訪問を全科定着させるための取り組み. 平成 11 年度院内看護研究発表会収録. 59-64. 1999
- 3) オペナーシング編集部. 術前・術後訪問を考える. メディカ出版 大阪・東京. 1999. 春季増刊
- 4) 中西睦子. 高嶋妙子. 看護サービス管理第 2 版. 医学書院. 25-26 . 2002.
- 5) 竹内登美子著編. 講義から実習へ周手術期看護 外来/病棟における術前看護. p 1. 医歯薬出版. 東京. 2000.
- 6) 佐藤禮子. 手術室看護マニュアル. 手術室における看護の特徴と手術室看護婦(士)の役割. 臨床看護. 20(13) 1858-1859. 1994.
- 7) 中西睦子. 高嶋妙子. 看護サービス管理第 2 版. 医学書院. 37 . 2002.
- 8) 佐藤禮子. 周手術期患者の看護マニュアル. 監修にあたって. 臨床看護. 19(6) 715. 1993.
- 9) 小島操子. 周手術期患者の看護マニュアル. 周手術期看護の現状と展望. 臨床看護. 19(6) 716-719, 1993.
- 10) 穀山聰子. 教育講演 3. 看護の室を保証するために必要とされるマネジメント. 日本看護研究学会誌. Vol.19 No.1.37-41. 1996
- 11) 高山結花他. 術前訪問定着化への体制づくり-低迷の要因探索と改善策の効果-成人看護. 30.129-131.1999

<アンケートの結果>

1. 時間的問題

- ・ 手術件数の増加(6人)
- ・ 午前午後の手術につく(5人)
- ・ 急患の対応を優先(3人)
- ・ 入院日数の短縮(3人)
- ・ 前日入院も多い(3人)
- ・ その他の業務に追われる(2人)
- ・ 時間内で行くのは無理(2人)
- ・ 手術時間の増加
- ・ 時間外に自分の業務(係の仕事)をすることが多い
- ・ 時間が出来ても少くなら自分の仕事をする
- ・ 時間内で行く余裕がない
- ・ 日勤帯で行くのは難しい(日勤でてがあくことがない)
- ・ 時間がないから行けない
- ・ 今のような調整では時間内に行けない
- ・ 日々手術をこなしていくだけで精一杯な状況
- ・ 手術をこなしていく毎日
- ・ 毎日時間に余裕のない状況
- ・ リーダー以外何かの手術についている
- ・ フリーはほとんどいない
- ・ 手術に集中している
- ・ 今の現状では難しい
- ・ 手術件数に対して看護師が少ない
- ・ 時間を作るのが問題
- ・ 今の手術室では忙しいため、行けなくても仕方ない
- ・ 多忙
- ・ 時間外まで行っていない
- ・ 時間外で訪問することへの抵抗
- ・ 時間に余裕のある時も訪問する事すら忘れてる

2. 意義・目的の認識不足の問題

- ・ 術前訪問に意義が見出せない
- ・ 意味があるのか疑問
- ・ 術前の軽視
- ・ 周手術期看護のスタッフの意識付けが必要
- ・ 必要性を実感していない
- ・ 意識、意欲がない
- ・ 必要性、意識が不足
- ・ 必要だという意識がうすい
- ・ 意味や目的について自分の中であいまいな部分が多い
- ・ 術前訪問を優先的に考えていない
- ・ 術前訪問がどうしても必要なか一人一人が確立していない

3. 外来、病棟との連携の問題

- ・ 病棟担当看護師との連携がない(2人)
- ・ 前日患者の1日の流れのなかでは時間内には無理
- ・ 自分のあいた時間と病棟との時間が合わないので時間がない
- ・ 時間内にうまく自分と患者のタイミングを合わせて術前に行くには、どうすればよいのかわからない
- ・ 各個人の仕事が終わって、患者の食事時間のことを考慮すると、かなり遅い時間になってしまう可能性もある

4. 組織風土の問題

- ・ 術前訪問をしなくても手術はすすんでいく(3人)
- ・ 行こうという気があまりない
- ・ 時間に余裕のある時も訪問する事すら忘れてる
- ・ 時間がないわけではないが、いつ行ったらいいのかわからない
- ・ 手術介助ができればよしとする、組織的風土に問題がある
- ・ 手術介助ができるようにと必死でやってそのままゴールで終わり
- ・ 術前訪問の軽視
- ・ 新人、配置替え1年の看護師の優先課題をこなす
- ・ どういう方法がよいのかイメージできない
- ・ 同一用紙がなくてどうしていいのかわからない

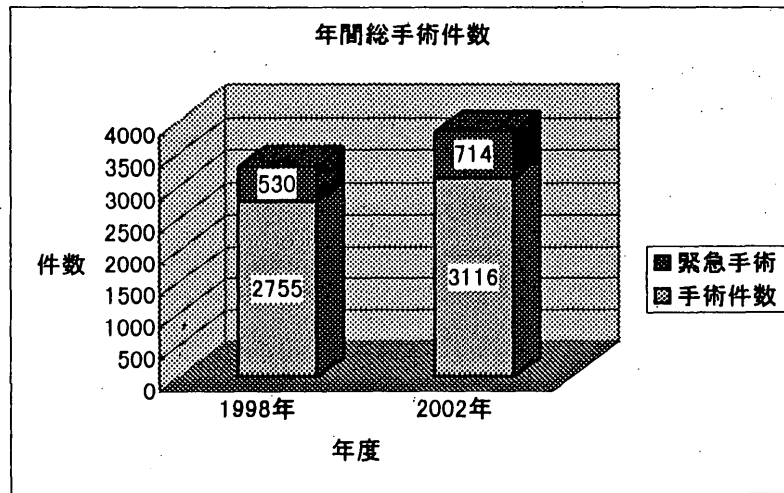


図-1

表 1-1 ハーツバーグの二要因

	環境要因 (維持要因ともいわれる)	動機要因
例	<ul style="list-style-type: none"> • 会社の管理体制 • 監督内容の質 • 同僚との関係 • 部下との関係 • 給与 • 仕事の安定性 • 労働条件 • 地位 	<ul style="list-style-type: none"> • 達成度 • 賞賛 • 昇進 • 仕事そのもの • 成長の可能性 • 責任

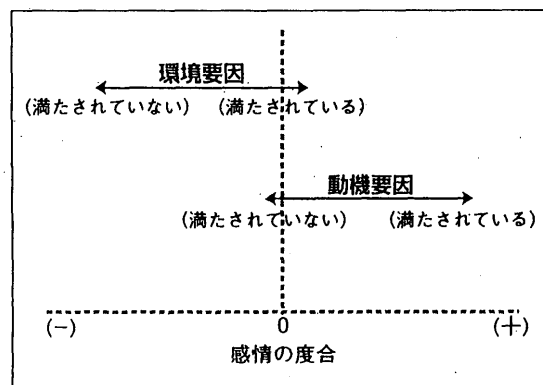


図-2 ハーツバーグの二要因の関係

文献 4,p25 より引用

表 1-2 マズロー・ハーツバーグの比較と看護職の重ね合わせ

マズロー	ハーツバーグ	看護職	
高次元	自己実現の欲求 満足感 動機要因	仕事そのもの 達成度 成長の可能性 責任 昇進 認められること	看護業務/研究 患者の回復 知識・技術の充実 責任領域の拡大 昇進
	地位 社会的欲求 環境要因	地位 上司との関係 同僚との関係 部下との関係 監督内容	地位 婦長・主任あるいは看護部長との関係 ナースどうしの関係 他職種との関係 患者との関係 看護管理の質
低次元	安全の欲求 生理的欲求	会社の管理運営方針 給料	病院および看護部の方針 仕事の危険性(感染の可能性) 労働条件(夜勤回数) 給料

文献 4,p26 より引用